

水稻営農情報

J Aいわて平泉から米農家の皆さまへ

令和3年度の稲づくりテーマ

病害虫に負けない稲づくりは土づくり！基本技術の励行を忘れずに

- 水稻の生育状況は田植え後の天候に恵まれ順調に生育しております。
これからの季節、雑草が目立ってきますので、雑草の種類や大きさにより適切な除草剤を散布してください。

注意：6月3日に病害虫防除協議会が行った取り置き苗調査において、取り置き苗から葉いもち病の発生が確認されました。至急、ほ場から取り除き、地中に埋めるなどの処分をしてください。

- ほ場全体に表層剥離が多くみられます。多発ほ場では1～2日程度の落水を実施してください。稲が全体的に黄色い場合は、ガス障害が考えられるため、同じように2日落水させ、ガス抜きを実施してください。

- 6月20日頃から稲の茎数が25本程度になったら中干しし、7月10日頃には終了させましょう。強い中干しは、倒伏の原因にもつながります。中干しは、地面に小さなひび割れが出来る程度にしましょう。
また、中干しの効果を高めるため併せて、溝切りも実施しましょう。

くわしくは、一関地方良質米生産技術情報第3号をご覧ください。

また、個別の相談については、お近くのJ A営農経済センターまたはJ A米穀課までご相談ください。